

H23年度夏季節電対策計画について

東日本大震災の影響による今夏電力供給不足の為、節電に対し以下の計画を実施致します。

対象事業所： ①大口需要家（500KW以上）→狭山工場

②小口需要家（500KW未満）→本社

節電目標： 昨年使用電力最大値から15%の削減。

対象期間： 7月1日～9月22日（平日9時～20時）

当社の対応

- 1、収益確保の為、可能な限り生産稼働を落とさず、節電による15%削減を果たす。
- 2、本社は、15%以上の削減を目指し、上乘せの削減分を狭山の削減緩和に回し狭山工場稼働促進に当てる。
- 3、狭山工場は、生産管理にて社内生産の最大効率を優先し、受注内容と現状の電力使用量（メーター値）を鑑み、毎前日に稼働・輪番停止を決め案件を 社内外に割り振る。

具体的対応策：

☆空調

- ・ 旧輪転用空調（本社1F倉庫）狭山工場事務棟空調の停止
- ・ 他空調は、早朝の制限時間外に室内を充分冷房し、規制範囲内は室温28度設定にて節電を推進。室温上昇で業務に影響が及ぶ場合、1、2、3階で調整を取りながら、全体電力使用量を見ながら、対処する。（例：2Fの冷房強化→1、3階で空調停止）
- ・ 未使用時の空調停止。

☆照明

- ・ 室内照明の間引きによる節電推進。
- ・ 休み時間の消灯。
- ・ 未使用エリアの消灯。
- ・ 狭山工場外灯の点灯時間20時以降にシフト。

☆PC

- ・ PC、モニタの省電力設定（モニタの輝度設定調整・PCスタンバイモード5分の時間設定による節電推進。）

☆自販機

- ・ 本社自販機6台を1F2F各1台稼働4台停止。
- ・ 狭山自販機2台を午前午後で輪番停止。

☆ クールビズの推進

- ・ 開襟、ポロシャツ、スラックスを推奨

以上

節電行動計画

事業者名	(株)エイエヌオフセット本社	責任者名	増田 守男
------	----------------	------	-------

節電目標	昨年夏ピーク比△25% 内23kW10% 分は狭山の規制緩和に使用。	節電実績	
------	---------------------------------------	------	--

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果	実行 チェック
照明	・執務エリアの照明を半分程度間引きする。1傘40W×2×86=6880W	3%	レ
	・使用していないエリア（会議室、廊下等）は消灯を徹底する。	3%	レ
空調	・執務室の室内温度を28℃とする（または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる）。	4% (+2℃の場合)	レ
	・使用していないエリアは空調を停止する。旧輪転2 37.5KW使用停止	5.5%	レ
OA機器	・長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	3%	レ

さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください			
空調	・室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する（外気導入による負荷を減らすため）。	5%	レ
	・日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	3%	レ
	・冷凍機の冷水出口温度を高め設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する（セントラル式空調の場合）。	2%	
その他	・本社1F倉庫の水銀灯400W×7=2800W 全面使用停止による節電	1%	レ

メンテナンスや日々の節電努力もお願いします			
照明	・昼休みなどは完全消灯を心掛ける。		レ
	・従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。 (従来型蛍光灯からHf蛍光灯又は直管形LED照明に交換した場合、約40%消費電力削減。)		
空調	・フィルターを定期的に清掃する（2週間に一度程度が目安）。		レ
	・電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		レ
	・室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		レ
	・電気以外の方式（ガス方式等）の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		
	・朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		レ
コンセント動力	・エレベーターやエスカレーターの稼働を半減または停止する。		
	・電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		レ
その他	・自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		レ
	・パルス電力測定装置を導入し、節電効果を項目別に事前チェックの上節電対策を実施する。		レ
	・コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		

従業員やテナントへの節電の啓発も大事です			
節電啓発	・ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		レ
	・節電担当者を決め、責任者（部門長）と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		レ
	・従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		レ
	・従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		レ

※ご注意

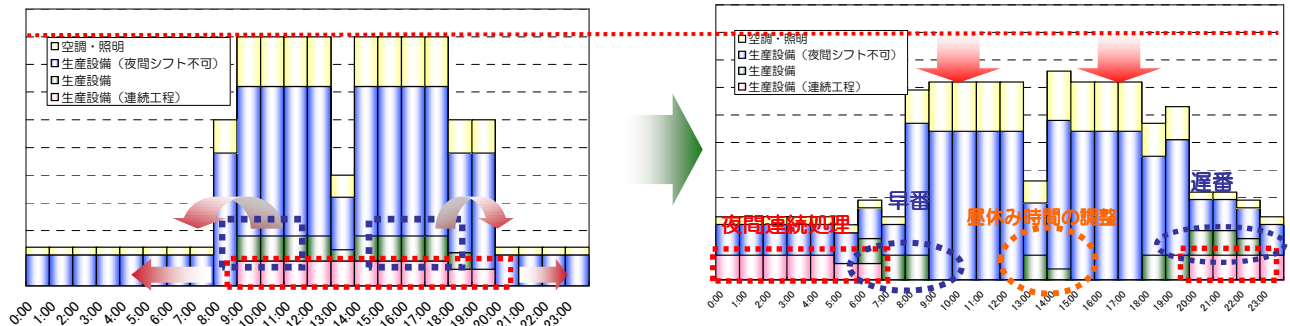
- ・記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。
- ・空調については電気式空調を想定しています。
- ・一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。
- ・節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

節電行動計画

事業者名	(株)エイエヌオフセット 狭山工場	責任者名	岡本 祥男
------	----------------------	------	-------

節電目標	昨年夏ピーク比△15.38	節電実績	
------	---------------	------	--

生産設備の節電メニュー		機械・設備毎の 節電効果	実行 チェック
<ul style="list-style-type: none"> 不要又は待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。 電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果：保温施工の実施例) 		- 7%	<input type="checkbox"/>
ユーティリティ設備の節電メニュー			
<ul style="list-style-type: none"> 使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果：単機における0.1MPa低減時) コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合いする]。 (節電効果：単機における吸気温度10℃低減時) 負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果：コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合) インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果：弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合) 冷凍機の冷水出口温度を高めめに設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果：利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合) 		8% 2% 9% 15% 8%	<input type="checkbox"/>
一般設備（照明・空調）の節電メニュー			
照明	・外灯250W12灯を4灯に間引き=250×8=2000W	0.2%	<input checked="" type="checkbox"/>
	・工場内水銀灯の間引き（水銀灯400W×36台中18台間引き=7200W）	1%	<input checked="" type="checkbox"/>
空調	・工場内の温度を28℃とする（または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる）。 (節電効果：室内温度設定を2℃上げた場合)	2%	<input checked="" type="checkbox"/>
	・外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 (節電効果：換気ファンの間引き運転9機の内3機停止。8kw相当削減)	1%	<input checked="" type="checkbox"/>
	・室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 (節電効果：日射の影響を受ける室外機によらずをかけた場合)	10%	<input type="checkbox"/>
その他の節電メニュー			
その他	・デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力△15%とし、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	・設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的実施することでロスを低減する。		<input checked="" type="checkbox"/>
節電啓発	・節電担当者を決め、責任者（社長・工場長）と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		<input checked="" type="checkbox"/>
	・従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		<input checked="" type="checkbox"/>
	・従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		<input checked="" type="checkbox"/>
生産用動力の稼働シフトによる電力ピーク抑制			
稼働シフト	・生産投入量により、機械設備の輪番停止。（230kw2台、150kw1台 約17%削減）		<input checked="" type="checkbox"/>
	・機械設備付帯の空調の輪番停止（40kw2台、25kw1台を輪番停止 約2%削減）		<input checked="" type="checkbox"/>
	・事務作業や昼休みの時間を調整し、電力ピークをシフトする。		<input checked="" type="checkbox"/>



※ご注意

- 記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。
- 空調については電気式空調を想定しています。
- 節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意下さい。